



# ようぼく一斉活動日支部担当者会議 行われる



第659号  
発行所  
天理教静岡教務支庁  
〒425-0013  
焼津市岡当日1番地  
TEL 054-626-1333  
Fax 054-628-4615  
Email:skyou@live.jp

教区報は、下のQRコードより、スマートフォン等で、ご覧頂けます。



ようぼく一斉活動日支部担当者会議が、6月29日午後1時より、各支部より支部長ほか中心となつて活動日を企画運営に携わる人を集め、教務支庁で開催された。

冒頭、教区長より、「先日行われた『ようぼく一斉活動日』（以下略）のたすけ委員長からのビデオメッセージの中で、2番目の男性は、『今回の年祭活動は十人の新しい人を教会へつなげてもらいたい』との心定めをお話しました。実はあの方は、十年前、教祖百三十年祭へ向かう年祭活動の中で、系統ごとの団参の時に職場の同僚のようぼくから声をかけられて、初めてお道の教えを知り、初めておぢばへ帰った人で信仰歴十年。十年前、知り合いのようぼくからこの尊いおぢばへ繋いでもらったから今回は自分が繋がせてもらう番なの

が一人でも増えていったらいいと思います。

先日、表統領先生は、一人でも多くの方に『一斉活動日』に参加してもらうことが目的ではなく、参加したようぼくが一人でも多く教祖のひながたを辿つて年祭活動の輪の中に入ってきてもらうことが目標であるから、育て間違いないようにということを重ねて仰られました。それぞれの地域にあつて、『一斉活動日』に携わらせていただく、お互いその点忘れてはならないと思います。参加された方々が年祭活動の日々を歩むのは、それぞれの教会を通してのことです。念頭にお会活動をしっかりとして進めさせていたかどうか、肝心であります。

私も先日、この2回目に参加したとき一番心に残ったのは受け入れです。受け入れる

で、心を定めてあのビデオに出たという話を聞きました。この年祭活動を通して、そういう方々で、そうしようとお願ひいたしました。この会場でも親切に溢れる会場であつたと思わせていただきました。

2回目が終わつて3回目へと向かいます。3回目はとも大事な回だと思つております。その次の4回目は、それぞれの支部の人事の変更の時期を挟み、全く新しいメンバーで勤めることになりまので、3回目の姿が4回目につながっていくのだと思ひます。さらに充実した内容となるように、今日の担当者連絡会を参考に、その準備を進めていただきたい」との挨拶があつた。

続いて三支部の代表より活動報告がなされた。

まず駿豆支部から地方委員の鈴木豊明氏より、会場を二会場から四会場に増やし、同時開催で行い、各組の会場で、それぞれ講話、神名流し、ひ



のきしん、おつとめ勉強の独自プログラムを行い、会場それぞれが工夫を凝らしてつとめたことが紹介された。

次に西駿支部長杉岡信宏氏より、支部としての開催テーマを「日頃おたすけを意識でき、おさづけを取り次げるようなようほくに育っていただく」として1回目、2回目と回を追うごとによろぼうとしての自覚・成人してもらえらるような内容にしている。より多く参加してもらうため管内よろぼうくに広く声を掛けようと、教区よろぼうく名簿を精査し、とくに支部内に所属教

会のないよろぼうくは、所属教会に問い合わせ、亡くなった人や連絡不可の人を除いた名簿を作成してきた。これ頼りに3回目以降、声を掛けていくと共に、今後、所属教会から遠く離れたよろぼうくの丹精のサーフティーマットとしての役割を果たせるような目指していきたいとした。

最後に西遠支部長杉本和弘氏より、独自プログラムでは「陽気チャンネル」から吉川万寿彦本部員の講話を視聴。その後、婦人会・青年会による手作りの

のきしん、おつとめ勉強の独自プログラムを行い、会場それぞれが工夫を凝らしてつとめたことが紹介された。



西駿支部長 杉岡信宏氏



西遠支部長 杉本和弘氏

コーンを参加者に配りながら、茶話会へと移行。会場では、「静岡おうた演奏会」のビデオを上映し、懐かしい思い出話に花を咲かせた。さらに今回は、婦人会を中心に「たすけあいバザー」を行い、売上金を能登半島地震被災地支援に充てたことを紹介した。

その後、三グループに分かれてねりあいをを行い、それぞれ活発に各支部同士の情報交換を行った。3回目へ向かうそれぞれ気持ち新たにした。

その後、三グループに分かれてねりあいをを行い、それぞれ活発に各支部同士の情報交換を行った。3回目へ向かうそれぞれ気持ち新たにした。

### 教区おうた合唱団 おうた演奏会 大阪公演を鑑賞研修



「今まで歌ってきたが、自分たちは聴いたことがないから、行ける者だけでも大阪へ行って勉強の意味も兼ねて是非聴かせて頂きたい!」という意見が多く上がったことから、合唱団として研修目的で企画され、東部

当日16日9時、教務支庁に集合して出発。途中、おちばに12時ごろ到着し参拝させて頂いた。現地である大阪府堺市の堺市民芸術文化ホールフェニーチェ堺大ホールに2時ごろ到着した。

午後3時からの公演では、おうた10番「よふきづくめに」(松田

元雄作曲)がまず演奏され、続いておうた2番 交響詩「おやさま」(山田耕筰作曲)が高らかに奏でられた。休憩を挟んでおうた12番 交声曲「ひながたの道」(中山もと編・團伊玖磨作曲)が演奏。おうた7番「心つくしたものだね」(團伊玖磨作曲)によって締めくくられた。

滅多に観客席で演奏を聴く機会のない団員になったという意見が聞かれ、定期的に演奏に触れる機会を取り入れたいとしている。



# 広がる支援の輪

## 中駿西・伊豆両支部が能登半島地震被災地へ赴く

### 中駿西支部



6月30日から7月2日にかけて、中駿西支部隊としては最初の能登半島地震復興支援ひのきしんへ行かせていただいた。

今回の出動に一番重きを置いたのは、震災から6ヶ月、我がことを置いてまで多くの支援団体の受け入れをされている珠洲ひのき

んセンターの方々のお手伝いをさせていたいただきたい、一息ついて貰いたいということ。

宿营地でのお手伝いとともに、北遠支部からご支援いただいた釜揚げシラスとネギトコの二色丼（静岡めし）を提供し、併せて出張美容室の開設とご婦人方をメインにした支援活動をさせていただいた。



センター長さんから



「私達を気遣っていただき本当にありがとうございます。逆に申し訳ないです」と感謝の言葉をいただいた。

またある方からは

「ほんなら今日はご飯つくらんでいいんけ！？助かるわ〜(能登弁)」と大変喜んでいただいた。

出張美容室でも、ひのきしんセンタースタッフや避難所の方々から多くの喜びの声をいただき、つとめた方も改めてお道の素晴らしさを感じるとともに、有意義な時間を過

ごさせていただいたことに感謝の念を抱いたようだった。

自らが被災したにも拘わらず、「我が身どうなっても」のこの教えを体現されている皆さんを目の当たりにして、危険を伴う作業だけではなく、支援金であったり、今回のような後方支援であったりと、何か自分にも出来ることがないかと「おたすけ」の心を持つことの大切さを教えていただいたような気がする。

まだまだ復興には時間がかかると思われる。支部管内からお寄せいただいた皆様の真実をもとに、これからも微力ではあるが支援活動として、復興のお手伝いにつとめていきたい。

### 伊豆支部

伊豆支部（山本真司



した。

ひのきしん内容としては、29日午前中は車両整備工場内の片付け、主にタイヤの運び出し、午後はお寺の家具の移動や片付けなどをさせていただいた。

翌30日午前中は個人宅で家屋の片付けや倉庫整理、被災ごみの搬出・運搬をさせていただき、帰路に就いた。

隊期中は、自衛隊宿営地で入浴をさせていただくという貴重な経験も出来、三日間怪我無く無事につとめた。



# 新任・教会長に就任して

中駿西支部

津大教会部属  
静悦分教会四代会長

おがわ さちこ  
小川 幸子



静悦分教会は、初代会長の母である白鳥ら

くの事情から、上級の志静分教会初代様よりをいがかかり、この道にお引き寄せいただきことより始まります。

その後、静儘布教所を開設、熱心にまた素直な信仰を続けてまいりました。

らくの出直し後、意思を受け継いで昭和33年、教会設立の御守護をいただき、初代・白鳥義正、二代・伊藤逸、三代・伊藤てつを会長として理の務めを怠ることなく仕えてきました。

三代会長が出直して

より長きにわたり会長不在が続いておりましてが、その間役員さん方が丹精を続け、繋げてくださいました。

しかし、教祖百四十年祭を迎えるこの時旬に四代会長の御守護をいただきたくと、上級会長様、役員信者さん方と話し合いを重ねてまいりました。

そのなかで、志静の役員で静幸布教所長を務めておりました私をご推挙いただき、3月25日、御本部にて四代会長の理のお許しを戴きました。

4月21日には、津大教会長様をはじめ、来賓先生方をお迎えして賑やかに就任奉告祭をつとめさせていただきました。

今後は、静悦分教会の上に苦労の中も教祖のひながたを頼りに努めてきてくださいました歴史代会長様方をはじめ、先人の方々の思い

を胸に、教会に繋がる信者さん方と共に身近な人たちへのいをいかけ、おたすけに励み、陽気で楽しく気軽に相談していただける教会を目指して努めていきたいと思えます。これからもどうぞよろしくお願ひ致します。

中遠支部  
幅下大教会部属  
薰遠州分教会三代会長

のりまつけんいちろう  
乗松健一郎

このたび5月26日、教祖殿にて教会長任命のお許しをいただき、6月16日に賑やかに就任奉告祭をつとめさせていただきました。

教会入り込み家庭で生み育てられ、幅下分教会(当時)から定時制高校へ通い、その後専修科、境内掛、上級青年、布教の家と教祖



のひながたを求め、学び、多くの先生方にお育ていただきました。その後、遠州へ戻り25年以上が過ぎたでしょうか…。

初代、二代会長様をはじめ、諸先輩方に多くの事をお仕込みいただき、ここまでつとめさせていただきました。

そして、教祖百四十年祭の三年千日の旬を迎えた昨年、前会長様のお出直し、自身の大きな身上をご守護いただいた大節をターニングポイントに、これから教会長として、おちば、大教会、上級、薰遠州に繋がる皆様方、教区、支部に繋がる教友と共に御恩に報いるようつとめ、皆様が寄り集いたくなる教会を目指して先を楽しみに進んでいきたいと思えます。

未熟者で至らぬ処多々あると思えますが、ご指導、御力添えのほど宜しくお願ひします。

# 道友社支部社友・教区・支部情報ねつと合同研修会開催



教区社友会(鈴木義信代表社友)、教区・支部情報ねつと(芹澤広和教区担当者)は6月30日午後3時より、合同研修会を開催、12名が参加した。

初めに鈴木代表社友より道友社代表社友会の報告があり、芹澤情報ねつと担当者より今後の取り組みについて説明があった。

続いて、大池元教氏(教区青年会委員長、教区報編集委員)を講

師に、教区報記事及び情報ねつとの投稿記事の書き方について勉強会が行われた。今回は新聞記事の書き方のテキストを使い、新聞などの機関紙上においての記事の基本的な書き方を説明、起承転結など言葉の使い方などを学び、今後の文書活動の上に活かしていきたいよう、お互いのスキルを高め合った。

